



# 伝えよう読書のよろこび 広げよう感動の輪



編集・発行 愛媛県読書グループ連絡協議会

## 平成30年度愛媛県読書グループ連絡協議会 総会並びに読書推進大会報告

「平成30年度愛媛県読書グループ連絡協議会総会並びに読書推進大会」を6月29日(金)、松山市道後姫塚のにぎたつ会館にて開催し、県内各地から、読書グループ関係者、読書教育関係者、読書愛好者等143名が集まりました。

総会では、今年度の事業計画・予算が承認され

ました。今後も、読書活動を通じた心豊かな生活の維持やふれあいの深化により、地域文化の向上を目指してまいります。

読書推進大会におきましては、午前には2組の事例発表・研究協議を、午後からは、森信雄先生に御講演いただきました。



森川会長あいさつ



会場の様子



研究協議

### 講演会 「日々あれこれ、将棋あれこれ」

講師 森 信雄 先生

四国中央市出身の棋士 森信雄先生に「日々あれこれ、将棋あれこれ」と題して、御講演いただきました。

～写真と振り返る思い出～

趣味で撮影された数々の写真とともに、将棋教室の様子や初めての弟子である故村山聖九段とのエピソード、さらに、普段の生活や旅先の思い出まで、盛りだくさんの内容でお話いただきました。



～“読書脳”を設定する～

講演の最後に、御自身の経験から、「読書脳」を設定すること、つまり、本の世界に入り込むためには、1日1時間でも本を読む時間をつくるのが大切だと語られました。

## 事例発表①

### 「楽しく続ける読書会」

のびる  
野蒜読書会（伊方町）代表 高門 さゆり さん

平成17年に発足した野蒜読書会。話題になった作品や作家ゆかりの地を巡る「旅読(たびどく)」や、伊方の地域らしさを知る自主研修など、読書から広がる豊かな活動が報告されました。活動の成果は、文集「野蒜だよ」「伊方ものがたり」にまとめているそうです。

「野蒜のように、地道な活動を続けていきたい」という発足当初からの目標どおり、気負わない活動を心がけてきたことが、活動の継続につながったと振り返られました。



## 事例発表②

### 「本と人をつなぐかけ橋でありたい」

まつやまばたぼんくらぶ（松山市）代表 菅 弥和乃 さん

子どもの読書活動の充実を目的とした長年の実践が報告されました。自身の子どもが通う幼稚園や小中学校でのおはなしボランティアの立ち上げ、図書館や書店等での読み聞かせの開催、学校図書館運営支援員としての活動など、活発な姿から刺激を受けました。また、絵

本専門士の資格も取得し、専門家としての資質も深めておられます。これからも、「おはなしの花を咲かせていきたい」として、絵本の読み聞かせで、締めくくられました。



## 『死ぬほど読書』

愛媛県読書グループ連絡協議会 会長 森川 啓子

「読書はしないといけないの？」と、新聞に掲載された大学生の投書を見て驚いた丹羽宇一郎氏が、読書の必要性をどう考えようと自由だが、たくさんの経験を積んで、たくさんの本を読むことは真に自由な世界へ導いてくれると語る。

これまで一冊の本からどれほどの感動を貰ったことだろう。本のない世界は考えられない。思い返せば、ページを閉じることが出来なくて朝まで読んだことも度々有った。そうして、顔と心にシワを増やしながらい自分自身を創って来た。シワは人生そのもの。

『死ぬほど読書』を読んで、改めて“心のありよう”に思いをいたし、読書と経験を重ねることの大切さを思った。

参考：『死ぬほど読書』丹羽 宇一郎 著 幻冬舎



## 『虚無への供物』を徹夜して読む

愛媛県読書グループ連絡協議会 顧問 愛媛県立図書館長 井原 恒久

私の今までの人生の中で、徹夜して本を読み通した経験が一度だけある。高校二年生の冬に読んだミステリー小説『虚無への供物』である。何気なく近所の本屋で購入したのだが、読み始めると面白さにページをめくる手が止まらなくなり、原稿用紙1200枚余りの大長編小説を、ひと晩徹夜して一気に読み終えてしまった。

作品を少し紹介しておく、1950年代東京の氷沼家を舞台とした連続殺人事件を描いたもので、最後は定石通り、あっと驚く犯人像とそのトリックが明らかになる。作品を通じて、戦後の東京という現実世界の中に「幻想世界」を見事に現出させた点、登場人物一人一人を生き生きと実に魅力的に描ききった点など、作者中井英夫の筆の冴えはものすごい。この作品が三島由紀夫はじめ多くの文学者を魅了した所以である。

このような本に出会うと、読書は本当に人生を豊かにしてくれると実感する。よろしければ、ぜひ皆様もご一読を。

参考：『虚無への供物』中井 英夫 著 講談社ほか

## 「県読連」とは？

- ☆名称：「愛媛県読書グループ連絡協議会」略して「県読連（けんどくれん）」と呼ばれています。
- ★発足：1964年（昭和39年）12月に発足しました。今年で設立55年を迎える歴史と伝統のある団体です。
- ☆目的：県下の各市町読書グループ相互の連絡と提携を図り、読書活動を推進するとともに、文化の向上・発展に資するよう、日々実践を重ねています。
- ★会員：会員数は県下全域に301名です（平成29年度末）。事務局は愛媛県立図書館内にあります。
- ☆活動：スローガンは「伝えよう読書のよろこび、広げよう感動の輪」です。地域の読書グループ活動の相互理解と、更なる普及・発展を目指して、読書推進大会や研究大会・地区集会、講演会などを開催してきました。平成30年度も、会員を募集いたします。
- ★通信：各地域の活動情報を掲載していきたいと思っておりますので、原稿を広く募集中です。お問合せは、県読連事務局（県立図書館内）まで。（089-941-1441）